

学校点描

今年の3月11日2時46分に、授業を中断して、震災で亡くなった方々に黙祷を捧げます。

《K中学校》

NO.22

R3. 3. 4

担当：校長

教育長さんが会議の中で、ある書籍の内容を話されました。世界にはいろいろな言語があるけれども、そのすべての言語のうち7割はネガティブなんだそうです。それには理由があって、動物は危険を察知するとそれを伝達することを重視するため、ネガティブな言語が増えたそうです。だから、言葉を使う限り、どうしても、マイナス的な思考になってしまうから意識して前向きな言葉を使う必要があるという話をしてくださいました。

自己肯定感が低い生徒は本校でも見られます。その生徒が使う言葉は、「ダメ・ムリ、面倒くさい、わたし（俺）はバカだから・・・」。その生徒を見ていると、周りの人がかける言葉のオウム返しのように感じます。人の心は言葉ひとつでどん底でも前向きに変える力があるはずです。

3. 1 1

「バババーン！」と音がして、当時勤務していた学校のトイレのタイルが全て落ちました。校舎にもあちらこちらに亀裂が入りました。宮城県に一番近い学校だったため、地震の影響は甚大でした。3年主任だったわたしに、生徒たちは「卒業式できますよね？」と泣きそうな顔で聞いてきました。「生きていればいつでもできる。」と答えるのがやっとでした。

語り継いでいかななくてはならないことがありますか？

高齢の方であれば、戦争の体験でしょうか。わたしにもあります。それは、2011年の東日本大震災です。3月11日が来ます。10年目です。

東日本大震災は、午後2時46分18秒に発生しました。阪神淡路大震災（1955年1月17日）は、午前5時46分52秒でした。阪神淡路大震災は、早朝ということもあり、家族一緒に亡くなった方々が多かったです。一方、東日本大震災は、家族全員がそれぞれの場所でバラバラに地震そして津波の襲来を受けました。岩手県では公立高校入試が終わった時間でした。家族がそれぞれの場所で二度と会うことなく永遠の別れになる、一瞬にして、自分以外の家族全員がこの世からいなくなる、そんな信じられないことが突然やってきました。

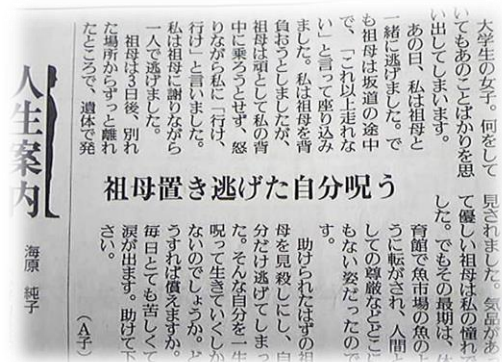
読売新聞の「人生案内」欄には、人生についての相談と、専門家からの回答が連載として掲載されています。東日本大震災発生から数ヶ月後に、ひとつの投書がありました。

投書（A子）

『大学生の女子。何をしてもあのことばかり思い出してしまいます。

あの日、わたしは祖母と一緒に逃げました。でも祖母は坂道の途中で「これ以上走れない」と言って座り込みました。わたしは祖母を背負おうとしましたが、祖母は頑として私の背中に乗ろうとせず、怒りながら私に「行け、

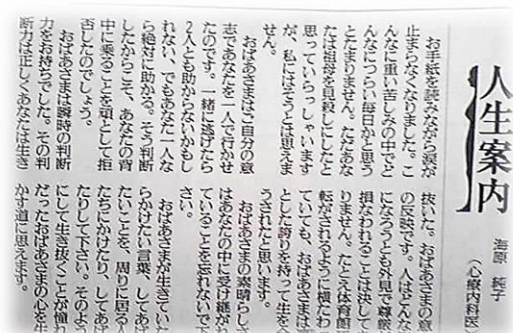
行け」と言いました。私は祖母に謝りながら一人で逃げました。祖母は3日後、別れた場所からずっと離れたところで遺体となって発見されました。気品があつて優しい祖母は私の憧れでした。でもその最期は、体育館で魚市場の魚のように転がされ、人間としての尊厳などどこにもない姿だったので。助けられたはずの祖母を見殺しにし、自分だけ逃げてしまいました。そんな自分を、一生呪って生きていくしかしょうがないのでしょうか。どうすれば償えますか。毎日とても苦しくて涙がでます。助けてください。』



当たり前の日常を送っていたところに、突然信じられないことが起きた。それが3. 11です。「あなたが3、4、5歳の頃に本当にあった話だよ。」と伝えることの義務を感じます。

回答(海原純子 心療内科医)

『お手紙を読みながら涙が止まらなくなりました。こんなに重い苦しみの中でどんなにつらい毎日かと思うとたまりません。ただ、あなたは祖母を見殺しにしたと思ってらっしゃいますが、私にはそうとは思えません。おばあさまはご自分の意志であなたを一人で行かせたのです。一緒に逃げたら二人とも助からない、でもあなた一人なら絶対に助かる。そう判断したからこそ、あなたの背中に乗ることを頑として拒否したのでしょう。おばあさまは瞬時の判断力をお持ちでした。その判断力は正しくあなたは生き抜いた。おばあさまの意志の反映です。人はどんな姿になろうとも外見で尊厳が損なわれることは決してありません。たとえ体育館で転がされるように横たわっていても、おばあさまは凜とした誇りを持って生を全うされたと思います。おばあさまの素晴らしさはあなたの中に受け継がれていることを忘れないでください。おばあさまが生きていたらかけたい言葉、してあげたいことを周りにいる人たちにかけたり、してあげたりしてください。そのようにして生き抜くことが、憧れだったおばあさまの心を生かす道に思えます。』



(読売新聞朝刊 2011.5.23)

あれから、10年になります。体育館が遺体収容所となり、スマートフォンからJアラートが鳴り止むことがなかったあの日々。

あの日の地震以降、この国は、何が変わったのでしょうか。

きりとりせん

ご意見・ご感想をお願いします。

メールでご意見をいただいても構いません。 Shinyatk1616n@yahoo.co.jp